文化財をたずねて No. 10

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6858）

福浦地区の文化財めぐり

福浦地区はもとは岡山県和気郡に属したが、昭和38年（1963）赤穂市に合併した。原始・古代の埋蔵文化財は現在のところ確認されていないが、岡山県日生町では福浦南方の鹿久居（かくい）島や西方の寒河（そうご）において縄文時代の遺物などが発見されている。当時は現在の平野部分が袋状の入江であり、「フクラ」がなまって福浦という地名になったとも言われる。永和２年（1376）に真言宗法光院が建立されていることから、中世後半には集落を形成していたのであろう。宮崎刑部（ぎょうぶ）による龍退治の民話もあるいはこの頃に原形が成立したのかもしれない。近世になって岡山藩による干拓事業が実施されてから大きく発展した。干拓事業は岡山藩池田忠雄（ただかつ）の時代、寛永元年(1624)から寛永６年(1629)までの第１期と、岡山藩郡代津田重次郎永忠（ながただ）が担当した、天和年間(1680前後）もしくは元禄年間（1700前後）の第２期に分かれる。また古池においては塩田の干拓が実施された。明治22年（1889）に寒河村と合併して福河村となり、さらに昭和20年（1945）日生町に合併した。当地のＪＲ西日本備前福河駅名に往時の名残りが見られる。

鳥打峠の地蔵

本町寺東火葬場跡

堤防水門扉

①鳥打峠（とりうちとうげ）の地蔵

鳥打峠を福浦側へ下った街道筋にあったものが、現在地に移された。高さ約120cm、幅約60cmを測る花崗岩製である。

②本町寺東火葬場跡

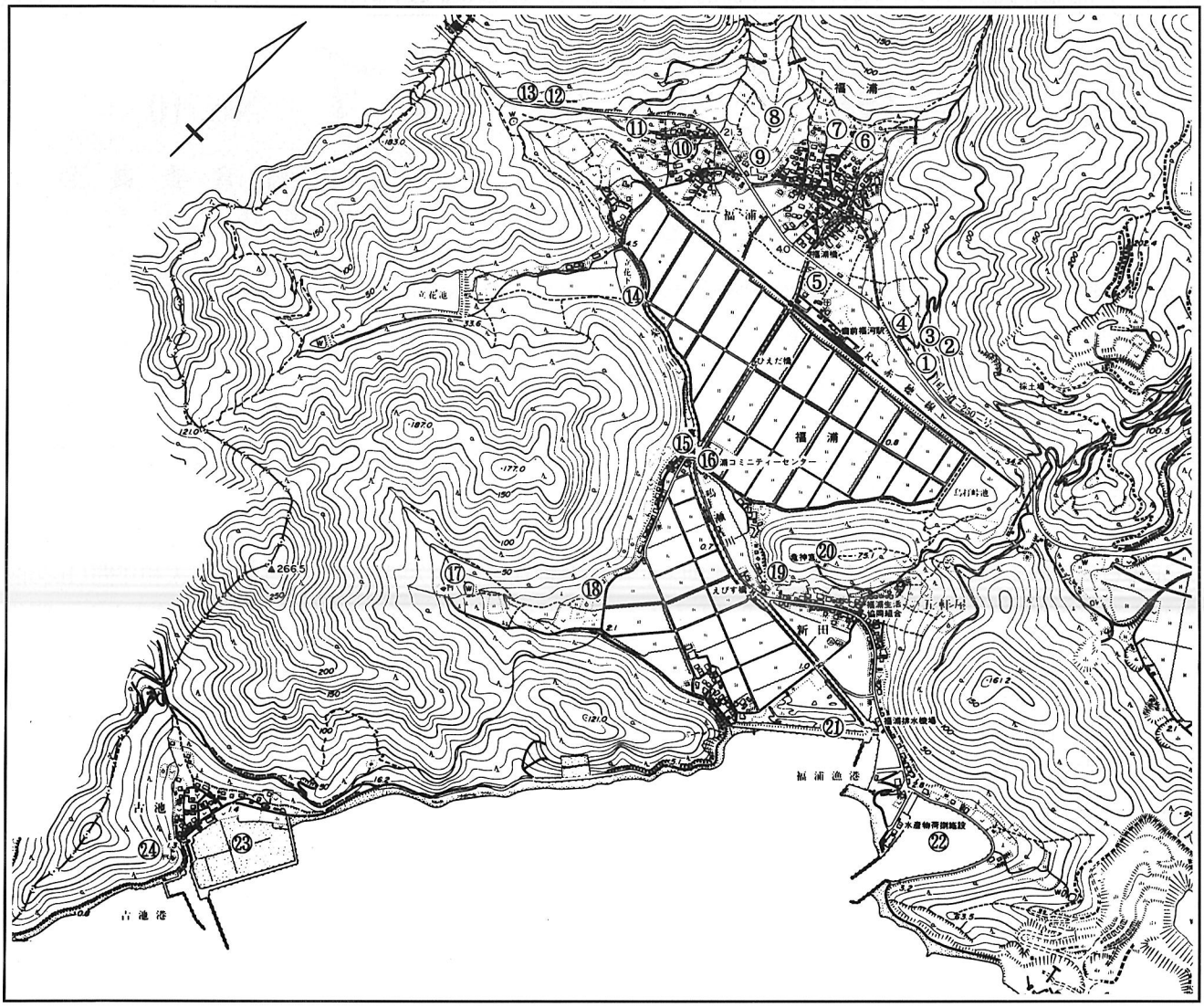
以前は市道新田線と備前福河駅前道路の三叉路付近にあったが、昭和30年（1955）国鉄赤穂線が赤穂・日生間に開通するため、山林に移転した。その後昭和38年（1963）赤穂市との合併により市営斎場を利用することとなり廃場となった。福浦には他に本町寺西、古土手、新田五軒屋、新田八軒屋、古池に火葬場があったが、現在全て廃場となっている。本火葬場は、他のものに比べて燃焼部や下の段の灰捨て場の区画である石垣が良く残っている。

③堤防水門扉

岡山藩池田忠雄の時代に実施された第１期干拓事業による古土手堤防に取り付いていたと考えられる、長さ約178cm、幅約94cm、厚さ約25cmを測る花崗岩製の板状石造物である。「寛永六年（1629）四月十一日　川本村作右ヱ門」と刻まれている。川本村は岡山県では和気郡佐伯町、赤磐郡山陽町、岡山市西大寺などにあるが、そのうちのどれかは推定できない。寛永橋付近の川底から見つかった後火葬場に移され、棺台として利用されていた。

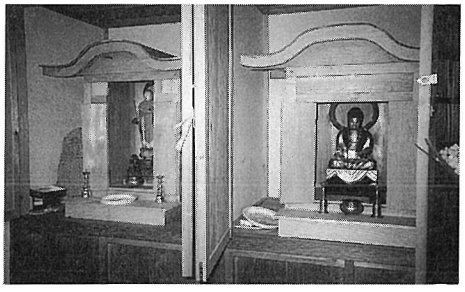
④水利有終（みずかがゆうしゅう）の碑

本名を水利新五郎と言い、万延元年（1860）福浦村に生れた。漢学者であり、明治15年（1882）赤松小学校（上郡町）に赴任後、赤松円心を祀る名刹法雲寺（上郡町）の復興に尽くした。この時の趣意書の名文によって新五郎の名が全国に知れわたった。その後明治17年（1884）３度目の福浦小学校勤務となり、八幡宮の神職も兼務した。



①鳥打峠の地蔵　②本町寺東火葬場跡　③堤防水門扉　④水利有終の碑　⑤旧街道道標　⑥薬師堂　⑦八幡宮(福浦正八幡宮)　⑧愛宕神社　⑨聳香山法光寺　⑩福浦小学校跡　⑪栄俊太郎の碑　⑫見真大師(親鸞上人)石仏　⑬峠の地蔵　⑭迎えの地蔵　⑮額田恵四郎の碑　⑯古土手石灯籠　⑰天則荒神社　⑱大泊地蔵　⑲お大師堂　⑳龍神社　㉑沖の大堤防沖　㉒入電池　㉓古池塩田跡　㉔塩釜神社

旧街道道標



薬師堂

⑤旧街道道標

旧街道に沿った田渕橋の際にあり、「東　是より東　赤穂へ二里」、「北　田渕橋　道標」、「南　旧街道　道標」、「西　是より西　日生へ二里」と刻まれている。福浦が岡山藩に属した時代から、赤穂との関わりの深かったことがうかがえる。旧街道は現在、狭い農道としてわずかに原形を止めているにすぎない。

⑥薬師堂

元の薬師堂は、現在の駐在所東の市道沿い南側に建立されていたが、昭和61年（1986）八幡宮参道前の公園に移築された。中を二つに区切り、向って右手に地蔵、左手に薬師像が祀られている。地蔵は個人の屋敷に祀られていたが、台風で堂が壊れたため薬師堂内に移された。またかつては堂の前に湧き水があり、産後に乳の出ない婦人が飲めば乳が良く出るとされ、近在の人々が水を求めに訪れた。

⑦八幡宮（福浦正八幡宮）

祭神に仲哀天皇、神功皇后、応神天皇、日子穂穂手見命を祀る。また境内の荒神社は須佐之男命、金毘羅社は大物主命を祀り、見分けがつくようにそれぞれの祠の下には「荒」、「金」の鬼瓦が置かれている。

また参道入口には、八幡宮が建立された後に土地の氏子が植樹した樹齢400～500年の楠がある。

⑧愛宕神社

祭神には火産霊神を祀る。聳香山法光寺裏の山腹に立地し、火の神として崇拝されている。建立時期は不明であるが、土地の古老の話しでは八幡宮より前からあったとされる。一時期は八幡宮に合祀されたが、村に火災が多発したため土砂降りの雨の日に元の場所に祀られたところ、火事が少なくなったとのことである。

⑨聳香山法光寺

浄土真宗本願寺派の寺院。永和２年（1376）真言宗法光院として創建されたが、文明５年（1473）浄土真宗に改宗した。当時は八幡宮の西に位置する小さな庵の寺院であったが、元和年間（1620頃）に全焼した後、元禄４年（1691）に再建された。明治32年（1899）栄俊太郎や額田恵四郎らの尽力により、現本堂が建立された。聳城氏が住職に就き、現在で17代目となる。

⑩福浦小学校跡

明治６年（1873）に創立した。明治22年（1889）に福浦・寒河小学校が統合されて尋常福河小学校と改称する。明治32年（1899）に福浦校舎が倒壊した後、明治35年（1902）に寒河東奥に移転した。

⑪栄俊太郎の碑

安政３年（1856）２月20日福浦村に生れた。相生小学校（相生市）に在職後帰郷し福浦小学校教師、村会議員、郡会議員、福河村長となる。漁業組合の設立や、法光寺現本堂建立に力を尽くした。

⑫見真大師（親鸞上人）石仏

見真大師（親鸞上人）の石仏が大きな自然石の上に祀られ、高さ約112cm、幅約62cmを測る花崗岩製である。側面に「昭和十二年(1937)一月　真嶋新五郎」と刻まれている。

⑬峠の地蔵

福浦から岡山県日生町寒河へ出る峠の国道沿いにある。地蔵堂の中に祀られ、高さ約45cm、幅約35cmを測る花崗岩製である。台座正面には「南無阿弥陀佛」、側面には「明治十七年（1884）甲申七月日　真嶋長十郎」と刻まれている。

⑭迎えの地蔵

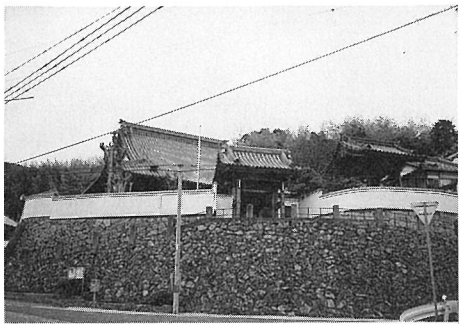
くちの池（別名：西のハス池）堤防南端の火葬場跡に東を向いて祀られ、高さ約128cm、幅約47cmを測る花崗岩製である。正面に「南無阿弥陀佛」と刻まれている。火葬場の迎え地蔵であった。

⑮額田恵四郎の碑

天保14年（1843）に生れた。藩政時代から寺子屋で子供たちの教育にあたり、廃藩後は福浦小学校で教鞭をとった。また福河村の初代村長として、明治22年(1889)～明治33年(1900)の間その任にあたった。

八幡宮（福浦正八幡宮）

愛宕神社



聳香山法光寺

見真大師（親鸞上人）石仏

迎えの地蔵

古土手石灯籠

天則荒神社

龍　神　社

沖の大堤防

塩釜神社

⑯古土手石灯籠

自然石を組み合わせた灯籠で、道路改修で若干埋まり、現在の高さは約2.7mである。また古土手とは岡山藩池田忠雄の時代に実施された第1期干拓事業の際の潮止め堤であり、石灯籠も当時のものであろう。

⑰天則荒神社

祭神に須佐之男命を祀る。地元では通称「宮谷」と呼ばれてる。天和年間（1680前後）岡山藩による干拓事業の際、土地の氏神を祀るために建立されたとされるが、旧本殿から邑久郡佐山村の宮大工5人が文政3年（1820）6月に建立と書かれた棟札が見つかっている。現在の本殿は昭和29年（1954）7月に再建された。

⑱大泊地蔵

天則荒神社へ至る参道の手前にあり、高さ約42cm、幅約12cmを測る花崗岩製である。現在はコンクリート製の堂に祀られている。

⑲お大師堂

赤穂83番札所であり、大師座像を祀る。堂の右手裏に湧き水があり、「お大師水」と呼ばれて飲料水にされていた。新田地区の井戸水は塩分が多いため、二軒屋、八軒屋からも担い桶で水を汲みに来ていた。

⑳龍神社

祭神に少童神、大山祇神、道祖神を祀る。境内社として、稲荷神社と恵比須神社があり、それぞれ宇迦之御魂神と恵比須を祀る。由来は、宮崎刑部の龍退治による建立とする説と、沖の大堤防構築工事の際に航行や工事の安全を祈願して建立とする2説ある。また戦時中には「玉よけ神社」として遠来からの参拝者で賑わった。

㉑沖の大堤防

岡山藩の時代に実施された第2期干拓事業の際の潮止め堤であり、240間（約432m）にわたる長大な堤防である。構築には3段積み工法が用いられた。施工の数年前に入電山、八軒屋、黒鼻の岩石を投入して泥底の沈下を待ち、さらに捨石を敷いて、その上に石材を積んだ。干拓事業は、新田開発で実績を残し、閑谷学校の経営や後楽園の造営などにも力を注いだ岡山藩郡代津田重次郎永忠が担当した。

㉒入電池

民話によると、宮崎刑部によって矢で両目を打たれた龍がもがき苦しんでのた打ち回っているところに、雷が落ちて池ができたとされる。現在は福浦漁港となっている。

㉓古池塩田跡

享和元年（1801）に備前国和気郡福浦村と寒河村の百姓が、福浦村字古池と寒河村字峠之前の干潟の干拓を岡山藩に願い出た。その後文政6年（1823）福浦村に2町8反2畝25歩半（約2.8ha）の塩田が完成した。現在は、地盤沈下により海没して海岸となっている。

㉔塩釜神社

祭神に塩土老翁、建御雷神、経津主神を祀る。古池塩田を干拓する際に、塩田の神様を祀るために建立したとされる。神社の裏には恵比須神社と首塚が祀られている。

（調査協力：有吉　敦、吉栖 清美）